

日赤あいち

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

**東日本大震災から5年
名古屋グランパスのホーム開幕戦試合会場で
復興支援パネル展&グランパス現役・元選手による募金活動**

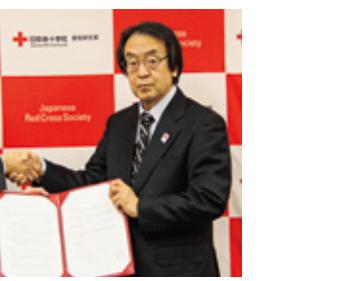
**CONTENTS****クローズアップ****トピックス****東日本大震災から5年 私たちは、忘れない。****浜松・東三河フェニックスとパートナーシップ協定を締結!****性暴力救援センター「日赤なごや なごみ」がオープン****「赤十字7原則エッセイコンテスト」愛知から最優秀賞****平成27年度 一般社団法人中京馬主協会助成事業****クロスサポーターに聞く!****大府市役所 生活安全課 危機管理室****浜松・東三河フェニックスとパートナーシップ協定を締結!**

日本赤十字社愛知県支部は、3月10日(木)に静岡県浜松市と愛知県東三河地区をホームタウンとするバスケットボールチームの「浜松・東三河フェニックス」とパートナーシップ協定を締結しました。

これまで同チームとは、イベントでの協働を行ってきましたが、今後はさらなる広報的な協力や、選手が参加するAED講習などを行い、スポーツを通じた社会貢献活動を推進していきます。

愛知県支部では、地元のスポーツチームとコラボレーションをした取り組みをすすめています。これまでにサッカーの名古屋グランパス、フットサルの名古屋オーシャンズとパートナーシップ協定を締結しており、今回が3チーム目となります。

今後の地元スポーツチームとのコラボ企画にご期待ください!

**「赤十字7原則エッセイコンテスト」愛知から最優秀賞**

2015年7月1日～11月30まで日本赤十字社と日本赤十字国際人道研究センターの共催により開催された「赤十字基本原則採択50周年記念 赤十字7原則エッセイコンテスト」には、全国の職員やボランティア、青少年赤十字指導者、赤十字看護大学・看護専門学校の学生などから計244件の作品の応募がありました。

応募作品の中から審査で選ばれた20作品のうち「ポエム・ツイートコース」で最優秀賞を受賞したのは、尾張赤十字救急奉仕団に所属する寺倉鉄二さんの「あたしの中の赤十字」。寺倉さんは受賞にあたり「今回の作品は日頃の赤十字活動を振り返り、頭に思い浮かんだことをそのまま作品に落とし込みました。今後も奉仕団員として7原則にもとづいた活動をしていきたい」と話しました。

また、「エッセイコース」でも日本赤十字豊田看護大学の学生、小倉采佳さんと濱美砂さんの2名が入賞しました。



入賞者作品詳細はこちらからご覧いただけます。http://www.jrc.ac.jp/ihc/essaycontest_award.html

平成27年度 一般社団法人中京馬主協会助成事業

毎年、一般社団法人中京馬主協会さまの助成事業により、名古屋第一赤十字病院および名古屋第二赤十字病院に医療機器の整備をさせていただいています。

この助成事業は、馬主の皆さまが「自分たちの手で、目に見える形で社会福祉に貢献したい」と始められたものです。

平成27年度は、次の通り整備することができました。心より感謝申し上げます。馬主の皆さまの想いとご厚意に応えられるよう、両病院で有効に活用させていただきます。

名古屋第一赤十字病院 電動油圧手術台一式

この手術台は全科手術に対応できます。特に患者さんの身体に負担の少ない内視鏡手術においては横軸角度を左右35度まで設定でき、最適な環境で手術施行が可能です。

本助成により電動油圧手術台を更新でき、毎年7000件を超える手術に加え、増加する高度な術式にも安全に対応していくことができます。

**名古屋第二赤十字病院 全自動尿分析システム**

これまでの尿分析システムに比べ精度と解析能力が進化し、カラーレンズタッチパネルの採用などにより操作性も向上しています。また高速処理能力を持つため、検査結果報告の迅速化につながります。



クロサポ! 特別編 No.4

■名古屋グランパス

赤十字のイメージは?
被災地の復興支援をサポートしているイメージがあります。
クロサポとして赤十字さんと様々な活動をさせていただいているが、個人的にも被災地支援など、これまで以上に協力したいと思います!

今年の抱負は?
ゴール・アシストなどの目に見える結果にこだわり、チームに貢献したい!!

●出身地:三重県

■名古屋オーシャンズ

赤十字を通じてどんな活動がしたい?
協力ができることがあれば全てしたいと思っていましたが、僕個人として直接関わる献血活動には、積極的に協力していきたいです!

今年の抱負は?
まだまだ試合に出場できる機会が少ないので、レギュラーとして定着できるように普段の練習から全力で頑張っていきたいと思います。

●背番号:18 ●ポジション:FIXO/ALA
●出身地:愛知県津島市

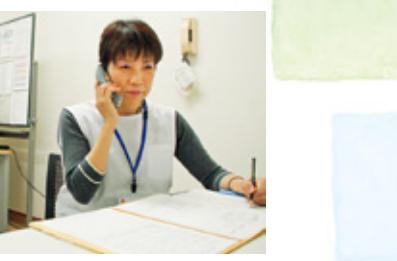
性暴力救援センター「日赤なごや なごみ」がオープン

1月5日(火)に、性暴力救援センター「日赤なごや なごみ」が名古屋第二赤十字病院内に開設されました。同センターは、性暴力被害者に寄り添い、本人の意思とペースを尊重しながら被害直後から中長期・回復まで継続した支援を行います。産婦人科医療、相談・カウンセリングによる心理的支援、検査関連の支援、法的支援などの総合的支援を可能な限り1か所で提供することで、被害の潜在化を防ぎ被害によるダメージからより早い回復につなげます。

これにより、性暴力被害の影響が世代を超えて連鎖することを断ち切り、病院を拠点に人々の健康と福祉の向上に寄与できる総合支援システムを構築することを目指します。

「なごみ」では、研修を受けた支援員(アドボケーター)20名と性暴力被害者支援専門看護師22名が常時2人体制で24時間のホットラインに対応しています。

同院の片岡笑美子副院長兼看護部長は「被害者は心身ともに傷つき、誰にも相談できず苦しんでいます。一人でも多くの方が安心して相談できるワンストップ支援センターを目指します」と話しています。



ひとりで悩まずに、「なごみ」にご相談ください

性暴力救援センター「日赤なごや なごみ」24時間ホットライン TEL. (052) 832-0753

クロスサポターに 聞く!

No.17
大府市役所 生活安全課
危機管理室

日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業や団体、人々(クロスサポーター)を紹介します。今回のクロサポは、大府市役所生活安全課 危機管理室です。

赤十字は、災害に備えて慣れない避難所生活を少しでも快適に過ごすことができるよう、毛布やタオルケット、安眠セットなどを用意しています。

愛知県支部では、平成12年の東海豪雨の際に、救援物資を必要とする場所に迅速に届けることができなかったという教訓から、それ以降市町村のご協力のもと、県内8ヶ所に拠点倉庫を設けて救援物資の配備を進めています。

今回は、こうした物資を備蓄している赤十字拠点倉庫の中でも、収容能力の高い大府市の倉庫についてご紹介します。

災害時の救援物資のターミナル倉庫を設置

大府市は、平成27年2月に市内初の災害対策用の倉庫を設置しました。

「この倉庫の主な目的は、災害時に必要な食糧や資材を常時備蓄しておくためだけではなく、災害が起きた時に日本全国から届く救援物資を一旦この倉庫に集約し、必要な避難所に振り分けていく、いわば救援物資のターミナル機能を果たすための倉庫です」と大府市の防災担当、鈴置純さん。

倉庫を建築するきっかけは、5年前の東日本大震災からの教訓もありましたが、大きな要因になったのは、昨年に愛知県が発表した南海トラフ地震の被害想定でした。「今まで災害が起きた時には市民体育館の施設を作業スペースにすることを計画していましたが、南海トラフの被害想定人数が予想以上に多く、これは専用の施設が必要だということになり、設置することになりました。



大府市生活安全課危機管理室の鈴置純さん

大府市の防災・減災対応

災害に備えた倉庫の整備だけではなく、市民の方々に対して防災・減災への意識啓発を行っている大府市。同市は、沿岸部と違い津波被害の想定はありませんが、地震の際は揺れにより大きな被害が出ることが予想されます。また、東海豪雨の時には川が氾濫し、甚大な被害が出ました。

鈴置さんは、「市民の方々には、災害があった時にはまずはなんとか無事でいてほしいという想いで、家の耐震や家具の転倒防止などの啓発をしています。この倉庫も市民の皆さんをはじめ、近隣の市町村の方々が生き残った後によく活用できるもの」と、日頃からの備えの大切さをお話してくださいました。

赤十字の支援物資保管に協力

「この倉庫は、大規模な地震だけではなく、局所的な災害時にも活用されることが期待されています。急な災害対応に備えるために一定量の救援物資の備蓄は必要です。大府市では避難所の毛布などの充実を検討していた際に、赤十字が広い範囲で被害が発生した時に、すぐに物資を届けるための拠点になる倉庫を探していることを聞き、私たちの倉庫を使っていただけたら、と思い声をかけていただきました」と、鈴置さん。赤十字にとっては、とてもありがたい申し出であったため、今回の物資配備につながりました。



大府市の倉庫へ災害救援用毛布の搬入

赤十字では各市町村のご協力を得て、県内全域をカバーすることにより広域災害の際に救援物資を被災者の皆さんにいち早くお届けできるように今後も務めてまいります。

